

「プランクtonネットと市販の生地を用いた砂含量の簡易分析法の検討」：訂正について

研究紀要 19 号 (2019) p21-24 本文中に誤りがあったので訂正する。

<図表について>

表 1. 供試試料の全炭素量と粒径組成、および簡易法による砂含量

※土壌名は日本土壌分類体系 (2017) による

試料	土壌分類名*	全炭素 (g kg <sup>-1</sup> )	ピペット法による粒径組成と区分						簡易測定法(n=3の平均値)			
			2-0.25mm	砂(細区分) 0.25-0.05mm	0.05-0.02mm	砂(全体) 2-0.02mm (%)	シルト 0.02-0.002mm	粘土 <0.002mm	20μm	55μm	ニューベンセット	ベンクリル
校庭1	造成土	6.1	36.3	45.8	3.3	85.4	8.2	6.5	75.7	71.3		
校庭2	造成土	11.9	64.0	18.0	3.1	85.0	10.2	4.8	70.0	70.7	67.0	64.7
畑1	黒ボク土	28.3	25.5	24.9	2.8	53.2	17.6	29.2	38.7	32.7		
畑2	沖積土	18.3	12.6	23.1	5.4	41.2	35.0	23.9	38.7	25.7		
畑3	沖積土	25.4	18.2	34.2	6.4	58.9	22.0	19.1	47.0	36.0	37.0	27.3
林1	黒ボク土	117.0	8.4	20.8	3.4	32.6	29.5	37.9	23.0	11.7		
林2	沖積土	33.5	5.3	46.8	15.8	67.9	19.1	13.0	39.0	16.7	23.7	9.3
水田1	沖積土	35.0	20.1	29.3	4.6	54.0	21.2	24.8	40.7	29.0		

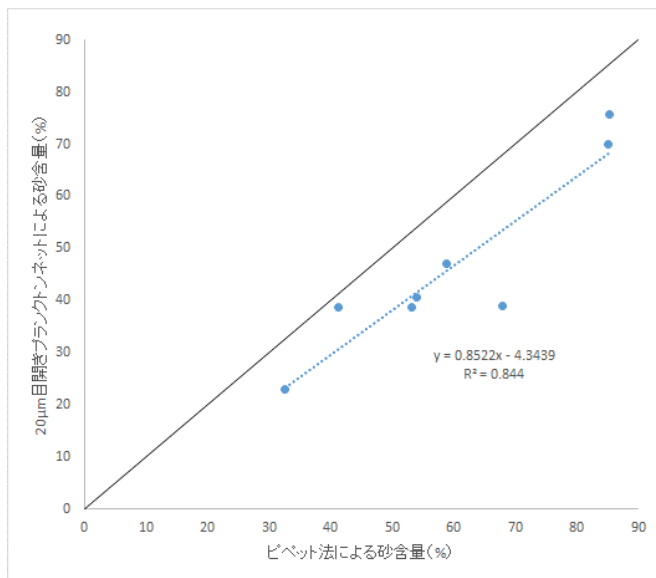


図 2. ピペット法と簡易法による砂含量 (%)  
実線は等値線を、破線は簡易法の近似曲線を示す

<本文中>

p 23 左段 1-2 行目 誤：係数は 0.89、R<sup>2</sup> が 0.93 であり  
正：係数は 0.85、R<sup>2</sup> が 0.84 であり

p 23 左段 8-11 行目 誤：しかし過大評価となった 1 点 (畑 2) に関しては、粘土粒子の目詰まりは粗大な有機物の存在は認められず、原因は不明である。  
正：ピペット法と最も差の大きかった試料 (林 2) は、0.05-0.02 mm の画分が他の試料よりも大きく、砂の境界に近い粒径が多い場合は、揉み洗いの際に押し出してしまうことが考えられた。今後の課題として、指先で軽くもみほぐす、時間を制限するなど洗い方の工夫が必要と思われる。